

(様式4)

平成27年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立滑川中学校 教諭 石井隼人

1 派遣期日 平成27年8月6日(木)～8月6日(木)

2 研修先 牛久市立下根中学校
茨城県牛久市下根町829番地
<http://www.ushiku.ed.jp/jhs/shimone/>

3 研修内容

(1) 下根中の学校経営の基本方針

- ・学力向上 → ラーニングコミュニティ
- ・心の教育 → ケアリングコミュニティ

2つの課題を日々の授業づくりの中で解決する
→ **学び合い(協同的な学習)**を学校の核にする研究

(2) 授業づくりの原点

- ・すべての子どもの学ぶ権利が保障されているか?
- ・すべての子どもがよい表情で学んでいるか?

授業を変える → 子どもが変わる → 学校が変わる

【職員集団の意識改革】

- ・学年職員で生徒の学びを語り合う中で、生徒を多面的に理解し、一人一人の生徒のよさを共有
- ・学年を核とした授業研究「生徒理解」「授業力の向上」「教師の同僚性の構築」
- ・**授業を通して学び合える学習集団**を高める共有目標達成のための「授業づくりの視点」を基にした日々の授業改善

～ 学校でくらい幸せでいてほしい いい表情で過ごさせたい ～

☆学び合いの原点：目の前の学べない一人の子どもをどうしたら助けることができるか

→ **授業を通して子どもたちの人間関係と学力を育てる(組織としての土台)**

(3) 授業観の変革

今までは……わかりやすく効率的な教え方の研究、

すぐにわかる子→飽きる、わからない子→やる気がなくなってしまう

その結果が招いた実態 → 学びからの逃走

これからは…教え方から学び方の研究へ

⇒ みんなで学び合う授業にしていく(協同学習)

→ **アクティブ・ラーニングと学び合い**

(4) アクティブ・ラーニングと学び合い

アクティブラーニングとは、

→ 課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習

◎下根中が目指した授業《落ち着いて学び、安心して自分の可能性を開くことができる授業》

・教室に自分の居場所ができる授業 ・学びでつながることができる授業

☆ **互いに聴き合う関係を築く**

(5) 質の高い学びの追究

・質の高い学びを実施すれば「アクティブ・ラーニング」が実現し、教育効果があがる。

(ただ生徒が活発に動き回り、内容の乏しい話し合いに終始する劣悪な授業と学びに)

・アクティブ・ラーニングは形式やスキルやスタイルだけでは実現しない。

→ **必要なのは、学び合いの本質に迫る質の高い学びへ向かう集団をつくること**

(6) 学び合いの授業の基本技法

【導入の工夫】

①できる限り早い段階での課題に出会わせる ⇒ 復習や説明で意欲をそがない

②子どもを学びに駆り立てる課題

Funな課題 - ざわつく Interestingな課題 - シンとしている

学び合いでは Interestingな課題を追及

③知識の習得や技能の習得で終わりにしない課題

⇒ 教科書を教えるのではなく、教科書で学ぶ

④学び合う必要性のある課題 ⇒ 一人では解けない → つながれば解ける

⑤教科の本質に迫る課題

【基本的な授業の構造】

①展開の前半は「共有課題」

・誰にもこれだけは身につけてほしいことを学ぶ ・低学力層の底上げを目指す

②後半はちょっとがんばればできる課題へ

・ちょっと背伸びすればできる課題で高学力層を伸ばす — 活用, 深化, 発展

③振り返り

・自分の気づき, わかったこと, わからなかったことを自分の言葉で表現させる

・知識(解き方)ではなく, 考え方(どのように乗り越えたか)

(7) 授業づくりの視点

- 1 授業は, 生徒一人一人の表情を見ながら進める
(学べない生徒を見つけるために, 学び合える生徒を育てるために)
- 2 学べないでいる生徒は「教えてと言っごらん」と隣の生徒につなぐ。言われた生徒はわかるまで教えてあげ, 教えてもらった生徒は「ありがとう」を返す。(他者に依存しながら自立することを育てる)
- 3 授業の中で「話す」ことよりも「聴く」ことを大切に学習集団をつくる。(教師が話すぎない)
- 4 授業中の教師の仕事は「聴くこと」—「つなぐこと」—「もどすこと」に徹する。
- 5 毎時間の学習課題を, 生徒にとって「高い課題」にする。(知識を基礎から積み上げるより, 高い課題を解く中で基礎を関連付け, 構造化する)
- 6 「わかったこと」をつなぐより「わからない」をつなぐ授業にする。「わからない」という言葉がでるような授業を目指す)
- 7 学習意欲を高めるために, 問題が解けるよりも, 友達と一緒に学んでいることを大切に
- 8 コの字の学習形態で生徒同士の聴き合う関係をつくる。(わからないときに近くの友達に聴けるように)
- 9 グループ学習を取り入れる
- 10 いろいろな「もの」を準備し「活動的」で「協働し表現を共有し合う」授業にする。
- 11 授業の最後で教師がまとめをしてしまい, 生徒の柔軟な思考を奪わないようにする。
(グループの中で育つ生徒の姿を見取る)
- 12 B規準の評価を全員が達成できる授業にする。

4 感想

生徒の学びを優先し, 必要のない約束などをおしつけない, わからないさを共有するなど, 教え方から学び方へ, みんなで学び合う授業にしていこうとする協同性が見られ, 組織としての取組が徹底されていた。教授する先生方の語りかけるような話し方や精選された発問, 魅力ある課題提示など, 生徒をよく見てきた先生方ならではの授業があり感動した。

生徒の意見や考え方から, 生徒が十分に理解していない, 気づけない箇所を察し, そこを発問し, また考え教え合う活動につなげていく感覚や技術は十分に模倣していきたいと感じた。さらには, 生徒の発言をいろいろな形でもどし, 考え話し合い, 自分の言葉で表現する活動を楽しんでいる生徒が多く, 学ぶ楽しさを実感している様子が十分に伝わる授業が多く展開されていた。授業後, 学校や授業はどうかと 2 年生の生徒に尋ねると, 「わくわくするから楽しい」との返答が返ってきた。学校がわくわくする場所, 笑顔があふれる授業であることは, 研究テーマとする”授業を通して子供たちの人間関係と学力を育てる”ことが力強く・確実に推進されている証であると感じた。

研修を振り返り, 目の前の生徒たちの声を聴き, 職員間での授業を振り返る機会としたい。また, この経験をもとに自己研鑽にさらに励んでいきたい。